

巻頭言

著者	水口 陽子
雑誌名	看護研究交流センター活動報告書
巻	28
ページ	i-i
発行年	2017-04
URL	http://hdl.handle.net/10631/00001383

巻頭言

大学は、教育機関ならびに研究機関としての役割を担っていますが、現在においては、大学の社会貢献の重要性が強調されるようになってきています。教育や研究それ自体が長期的観点からの大学の社会貢献ですが、近年では、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、いわば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代になっているものと考えます。新潟県立看護大学では、大学と地域の交流の場として看護研究交流センターを併設しています。このセンターは、新潟県の大学として、この第三の使命を実現するための拠点となる施設です。本学の教育・研究の成果を地域へ還元することを目的とし、地域と大学が共に成長していくための橋渡しを担っています。

看護研究交流センターでは、平成 28 年度も先駆的学習支援部門、地域社会貢献部門、看護職学習支援部門、地域課題研究開発部門、特別研究部門の 5 つの部門を置き、本学の建学の精神である「ゆうゆう・くらしづくり」に基づき、それぞれの部門の活動を展開してきました。先駆的学習支援部門では「人体の微生物ワールド」をテーマとした市民公開講座を開催しました。また、上越教育大学と連携した「女性のダイエットと健康」についての公開講座を開催しました。地域社会貢献部門は、地域の医療者・大学と地域住民の交流会である「いきいきサロン」を今年度は 6 回開催しました。看護職学習支援部門は、県内の看護職・介護職者の学びの機会として、どこでもカレッジ公開講座を中心に活動してきました。地域課題研究開発部門は地域の保健・医療・福祉に携わる看護職者と大学教員との共同研究である地域課題研究を行い、発表会を開催しました。また、上越地域の看護研究の発表の場である上越地域看護研究発表会を同日に実施しました。特別研究部門は、地域における課題解決に向けた活動に協力する取り組みに着手しました。これらの活動内容については各部門の報告内容をお読みいただければと思います。さらに、平成 26 年度から始まり、大学から地域へ出向く「出前講座」は、本学教員の専門的知見や研究成果等を地域へ還元する地域貢献活動の一環として行う事業です。地域の皆様の生涯学習の機会としてお役立ていただけるよう、医療・福祉・健康等に関する様々なテーマを用意しました。平成 28 年度も多くの依頼があり実施できました。

このように、センターとして様々な活動ができましたことで、地域の皆様との絆がより深まってきたと思われれます。皆様のご支援に深く感謝しております。

今後も地域の皆様からの要望をもとに、5 つの部門を柱として活動していきたいと思えます。これからもご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

平成 29 年 3 月
新潟県立看護大学
看護研究交流センター長
水口 陽子